

2年目 小中一貫教育 ● 連載 No.21 ●

生徒から見た小中一貫校 vol.3

『西溪校生徒会インタビュー』



■問い合わせ 教育委員会 学校教育課 ☎75-12227

各小中一貫校の生徒会にスポットを当てての学校訪問

取材の第3弾は西溪校中学生部生徒会！

生徒会活動や生徒から見た小中一貫校の良さ、アピールポイントを取材しました。



生徒会執行部インタビュー

『一期一会の縁』を

合言葉にした学校づくり

(写真左から)

(生徒会長)

(副会長)

西村 脩吏さん

副島 千聖さん

小中一貫校東原席舎西溪校中学生部生徒会は、生徒会執行部(生徒会長、副会長)、専門部(放送生活部、保健部、図書文化部、給食部、ボランティアサービズ部)から構成されており、各専門部は部長、副部長の2人で活動に取り組んでいます。

生徒会長の西村さんは、児童生徒一人ひとりを大切にしたいとの思いを込めた『一期一会の縁』を合言葉に掲げ、あいさつ運動や全校合唱など小中学校の交流を深める活動を企画して取り組んでいます。



▲あいさつ運動の様子



▲全校合唱の様子

12月の定例教育委員会のお知らせ

日時 12月12日(金) 13時30分

場所 市役所 第2委員会室(自由に傍聴できます)

■問い合わせ 教育委員会 教育総務課 ☎75-13450

トイレット清掃の様子



生徒会集会での司会や小学部の専門委員会と連携した委員会活動を担当する副会長の副島さんは「生徒としての自覚や責任を持てるようになり、自信にもつながります」と活動を振り返りました。

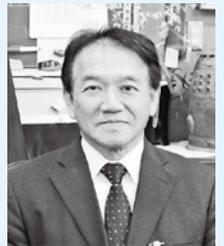
給食の時間には小中合同で食器の管理を行ったり、図書室のカウンター当番を分担したりと小学部の専門委員会と協力する企画も実践する副島さん。「一貫校となったことで生徒の自覚が強くなり、児童のお手本になろうという意識が高まりました」と一貫校の効果を語ります。

生徒会長の西村さんは「西溪校の伝統である腰鼓は、6年生が5年生に指導することで伝統の継承を行っています。また、理科の授業など生徒同士の学び合い活動を通して教える側も教えられる側も理解の向上にもつながります」と西溪校の特徴を語ります。また、「生徒会長として会の方針の決定や自分から行動することで、各委員が協力できるよう常に意識しています」と会長としての心構えを説きました。



生徒会取材の様子

各小中一貫校の生徒会にスポットを当てた生徒会特集。西溪校でも一貫校の特色を活かした生徒会活動に取り組み、自信にあふれた生徒の表情が印象的な取材でした。



小中一貫校東原席舎西溪校

今泉 弘 校長

これまでの歴史と伝統を大切に、新たな一歩を踏み出す生徒会

今年度の生徒会の活動方針は「一期一会の縁」です。「みんなと出会えたこの西溪校の仲間を大切にしたい」という生徒会長である西村くんの思いが込められています。

西溪校では、生徒会長の思いも大切に、小中一貫校の良さを生かす活動として、異学年交流活動を学校教育の重点の一つにしています。朝のあいさつ運動、春の遠足、論語ルタ大会、総合的な学習の時間等、さまざまな場面で小中合同や異学年交流の機会を生み出しています。

これらの交流を通して、中学部の生徒は、中学生としての自信と誇りをさらに高め、小学部の児童は、お兄さん、お姉さんに人生の先達として憧れを抱くなど、一貫校の良さを醸し出してきています。

『豊かな学び』と『恕の心』を育む教育を目指して 多久市小中一貫教育研究発表会

小学部と中学部の教職員が協働して教育実践を行い、小中一貫校9年間の義務教育を充実させることを目的に、11月7日、西溪校を会場に、多久市小中一貫教育研究発表会を開催しました。

研究発表会では、福岡教育大学の重松宏明教授を招いて「小中一貫教育推進の状況」をテーマに基調講演を行いました。講演では、小中一貫校の先進事例の紹介や、小中合同授業の効果、児童生徒の変化などスライドを使った説明が行われました。

続いて公開授業と題して「小中の乗り入れ授業」や多久の歴史・文化や職場体験発表をテーマにした「異学年交流授業」、「ICT活用授業」が実施され、約200人の教職員等が参加し、一貫校の特色を活かした研究発表会が盛会の中で展開されました。



▶異学年交流授業